

第4回 地域教育

南予ブロック集会



実施報告書

かかわりをチカラに つながりをカタチに



と き ; 令和2年2月1日(土)
と ころ ; 西予市教育保健センター

編集協力・イラスト 岩河ゆかり

十年間続いた地域実践交流集会をさらに発展させようと、昨年「地域教育実践ネットワークえひめ」という組織を立ち上げてから一年余りが経ちました。組織は人々の想いと行動によって変化や成長を遂げますが、ネットワークえひめを動かしている主力メンバーの想いと行動は、運営委員会の議論や県下各地で繰り広げられているメンバーが関わっている活動を見る限り、随分パワーアップしたと実感しています。また県下各地で広がりとつあるコミュニティ・スクールの取組も、しっかりと根付き始めたことは嬉しい限りです。



地域教育実践ネットワークえひめ
代表

若松 進一

子どもたちを取り巻く社会は先行き不透明な危機の時代であることを私たち大人は深く認識し、生きる力とは何かを考えながら、子どもたちに生き抜く力やともに生きる力がつくよう実践体験を積み重ねなければなりません。そのためには、あのような大人になりたいと子どもたちから思われるような人にならなければなりません。

南予ブロック集会で、人と情報のネットワークが広がることを期待しています。

「かわりをチカラに つながりカタチに」という言葉にいつも勇気をもらいます。これは、関わることで、何か新しいことが起こることを示しています。

小説「下町ロケット」のモデルになった植松努さんのブログを読んでいて、新たな気づきがありました。「愛がゆく」というマンガがあります。作家は、「お～い！ 竜馬」や「あずみ」等の作者小山ゆうさん。超能力者を描くSFマンガです。このマンガの中で、現在の人類よりもはるかに進んだ科学を持つ未来人が、地球にやって来て、地球を占領してしまいます。そして、未来人は、人類を判別機にかけます。遺伝子や能力などが調べられ、それぞれの人の額に数字がプリントされます。未来人は、その数字を基準に、低い数字の人を消去することで、社会を効率的に運営していこうとします。主人公を幼い頃から育ててくれた、近所の優しいおっちゃんたちは、残念ながら、みんな数字がとても低く、次々に死んで消えていきます。確かに、そのおっちゃんたちは、頭もあまり良くないし、よくミスをします。でも、主人公は、おっちゃんたちのおかげで、優しさや、思いやりを学んだのです。もしも、おっちゃんたちがいなければ、大切なものを学ばませんでした。おっちゃんたちの能力は低いのかもしれないけれど、主人公と出会い、関わり合ったことで、素晴らしい未来が作られました。

人は、その人本人が奇跡を起こす可能性を、もちろん持っています。しかし、それよりもっとすごいのは、その人が誰かと出会い、関わることで起きる、意図せぬ奇跡です。それは、本人にも、そして、誰にも予測できません。素晴らしいと思いませんか。本集会において、様々な関わりが生まれ、新しい何かが起こることを心より楽しみにしています。

地域教育南予ブロック集会実行委員長 浅野 長武

南予ブロック集会 日程

かかわりをチカラに つながりをカタチに

開 会

13:00 ~ 13:15
4F大ホール

実行委員長あいさつ 浅野 長武 (ASANO OSAMU)
歓迎ワークショップ 大藤 毅 (DAITOU TSUYOSHI)

分科会

13:20 ~ 15:00

各分科会場

参加者みんなで
つくる分科会

分科会 A

地域で見守る育てる

事例発表 1

NPO法人ひだまり
(鬼北町)

事例発表 2

多田エコグループ
たんぼぼ
(西予市)

分科会 B

笑顔あふれる町

事例発表 1

八幡浜児童合唱団
(八幡浜市)

事例発表 2

NPO法人ハッピー
スマイル
(宇和島市)

分科会 C

多世代交流

事例発表 1

高川
地域づくり会
(西予市)

事例発表 2

小田高型
ソーシャルキャピタル
(内子町)

分科会 D

魅力ある地域

事例発表 1

古民家
「どい書店」
(内子町)

事例発表 2

三崎高校
「三崎おこし」
プロジェクト
(伊方町)

全体会

15:15 ~ 16:25

4F大ホール

参加体験型交流

~ 楽しく語り合う 70分 ~

ファシリテーター

二宮 伸司

NINOMIYA SINJI



交流会

17:00 ~

富士酒屋

ネットワークをつなぎ、活動の幅を広げる



分科会 A 《地域で見守る育てる》

(4 階 研修室 1)

司 会 者 ; 西山 美樹
会場責任者 ; 澁武 美貴

NPO 法人ひだまり工房

高木 真弓

【障がい児の可能性】

障がい児を授かり、療育の経験の中でドーマン法と出会い、障がい児であっても、好きなこと、興味のあることについて学び、習得する能力があり、子どもたちは学びたがっていると分かりました。

障がいのある方たちの地域資源の少なさを知り、福祉事業を始めました。最初は就労支援事業を始めたのですが、障がいのある方、保護者等のニーズにより相談支援・放課後デイサービス・グループホーム・生活介護と多岐にわたり支援を行っています。

放課後デイサービスでは、放課後・学校休業日に、小1～高3までの幅広い年代の子どもたちを支援しています。「繰り返しの経験」をテーマに、本人・保護者の目指す自立に向かっての支援を行っています。

質疑応答

Q 何十年も活動を続けるためには、家族の協力など、どのような協力があつたか教えてください。

A 子どもとマンツーマンだったからこそ、その分協力者が多いです。父は古いタイプの人でしたが障がいのある子どもを外に連れ歩いてくれました。実家が地域に根ざした美容室であつたお陰が大きいです。周囲の温かい見守りがあり、手を差し伸べてほしいと思ったら、周囲の人に自分からお願いしました。自分の周囲の人はきっと手を差し伸べたいはずだと信じ、自分から発信しています。重ねて、重ねて、気持ちを伝え続けていると、周囲の人も協力するスタンバイができると思います。以心伝心はないと思っています。自分から発信しないと伝わらないと思っています。

Q この先、もっとしてみたいことがあれば教えてください。

A 展開というより、組織を固めていきたいと思っています。自分亡き後も視野に入れて、鬼北町になくってはならない施設だと皆さんに認めていただけるような場所にしたいです。

Q 学校とのかかわりはありますか。

A 広見中、中央児童福祉施設、日吉中、宇和特、三間中、三間高の生徒がひだまり工房に福祉体験や、美容室に職業体験に来ています。障がいのある方がお客さんとして来られたり、ひだまり工房がパンを販売して、障がいのある人と自然に関われるようにしています。普通の交流をして欲しいと思っています。

Q 高木さんの行動力と熱意に圧倒されました。自分の子どもだけでも大変なのに、他の子どものことも受け入れる、その原動力は何ですか。



A 美容室で、学校を卒業した後行くところがないなど、お客さんの困りごとを日々聞いていました。支援してくれる企業をお願いして回りましたが、結局、自分が動き出すしかありませんでした。3年かけて協力者を集めました。立ち上げ総会には38名の方に集まっていただきました。自分が旗を振っている状況に見えますが、後ろからたくさんの方に背中を押してもらっているような気持ちです。

多田エコグループたんぽぽ生活学校

菊地 由嘉

【多田っ子とエコ活動】

多田エコグループたんぽぽは、平成9年に発足、現在22年目です。

ボカシ作り、廃油石鹸作りなどをベースに月2回活動し会員数30名です。多田小の5年生が、月1回ほど年間を通して活動に参加し、「多田地区の豊かな自然を守ろう」をモットーに、河調べ・自然観察会・ボカシ・廃油石鹸の普及など一緒に行っています。

今年から月1回「たんぽぽカフェ」も始めました。子どもの居場所づくりを目的に、世代間交流も兼ねて、公民館で手作りおやつを食べながら交流しています。

質疑応答

Q 自然調査などの講師になる人材の集め方を教えてください。

A たんぽぽには先生になれる人はいません。イベントごとに講師料を払ってお願いしていました。夫が退職してからは夫が講師をしています。観察会は三崎羅自然塾の水元先生を呼びますが、県の環境マイスター制度を活用しています。

Q 子どもたちにとってたんぽぽ生活学校とはどんな存在ですか。

A (多田小 黒田教頭)たんぽぽカフェがある日は放課後の居残りは許してほしいという子どもの声があります。毎月とても楽しみにしています。現在の公民館主事もエコグループができたときの小学生でした。大きくなって戻ってきて同じ活動をしています。続けることにはそういうメリットがあると感じます。

Q あったかい懐かしい、いい場所だなと思います。材料費などは、どうしていますか。

A 生活学校からフードドライブをしたら年間3万円、世代間交流をしたら3万円の補助がもらえます。たんぽぽの会員から集めている会費(年間1,500円/1人)とせっけんやアクリルたわし等の売り上げを活動費にしています。赤字になることもあります。手作りのおやつを喜ぶ子どもたち、おやつを通して交流することを楽しんでいる会員やグループホームのお年寄りがあり、やりがいになっています。

Q 22年間活動していますが、子どもたちが変わってきたなと思うことはありますか。

A 昔の子どもたちの方が積極的だったと思います。川に入っても、虫が触れない子もいて、変わったなあと感じます。今の子どもたちはなかなか遊びにいけません。地域に居場所を作り、地域で認めてもらえる場所を作りたいと思います。

分科会 B 《笑顔あふれる町に》

(4 階 研修室 2)

司 会 者 ; 中本 克也
会場責任者 ; 佐々木一光

八幡浜児童合唱団

國安 健太

【八幡浜児童合唱団の運営】

“ 歌声がきこえて来る心豊かな街 ” をスローガンに 1 人でも多くの人々に親しみを持って聴いて頂ける児童合唱団を目指し、「一般社団法人 八幡浜青年会議所」が推進役として 1974 年（昭和 49 年）5 月 25 日に結成しました。

現在 32 名の団員・指導者とともに、純真にして、健康な歌声のひろがりこそ、明るい豊かなまちづくりであると信じて前進しています。現在は、毎年 1 月に行われる定期演奏発表会をメインに、各種地域のイベントや愛媛県少年少女合唱連盟演奏会、全国大会などいろいろなところで発表を行っています。



質疑応答

Q 毎週土曜日の練習となっているが、現状を教えてください。

A (月謝等は)お安い金額です。みんなが集まりやすい市内中心部に練習場所があり、子どもたちが通うのも便利です。保護者も協力的で参加率も高くなっています。

Q 合唱団は卒業まで続けることができるのですか？

A 都合によりリタイヤする児童もいますが、約 7 割が卒業まで続けています。

Q 入団選考会で落ちる子はいるのですか。

A ここ 3 年間はいません。

Q 依頼される場合出演料はいくらですか。

A 営利目的ではやっていません。お金よりお菓子などをいただくことはあります。

宇和島市 NPO 団体ハッピースマイル

星野 公美

【ふれあい子ども食堂】

ふれあい子ども食堂は平成 30 年 8 月初開催となりました。開催当初は満足に食事ができない子どもに温かい食事をとの思いで始めた子ども食堂ですが、地域のコミュニティの場としての役割の方が大きいのではないかと思い始め、現在では赤ちゃんからお年寄りまで幅広い参加があります。

毎月第一土曜日に開催しており毎回 80 名~100 名ほどの参加があります。地域のお年寄りも毎回楽しみにしていて、「家では一人で食べている、ここでは子どもたちとワイワイ話しながら食事をするのが楽しい」と言っています。

毎回季節の食材、行事を大切に栄養満点のバランスの良いメニューを考えています。ボランティアスタッフは地区の民生委員さん、有志の方 15 名ほどで活動をしています。

開催から 1 年が過ぎ、子どもたちと地域の方々にも地域コミュニティの場としてなくてはならない場になっていることを実感しています。

質疑応答

Q 子ども食堂の課題は何ですか。

A 当初は学校の協力がありませんでした。周知するのが難しかったです。認知してもらってからは対応が変わりました。民生委員の方とのかかわりを通して、本当に必要な人を発掘することが大切だと思います。

Q 参加されている人のエリアはどのくらいですか。

A 小学校の校区外からも参加している子がいます。お年寄りも、歩いて参加される方が多いです。

Q 今までのハプニングはありますか。

A 人数が多すぎたことがありました。しかし、ボランティアの方が対応してくださり、何かは食べて帰っていただくようにしました。



分科会 C 《多世代交流》

(2 階 集団指導室)

司会者；谷本 結花
会場責任者；森竹奈三枝

高川地域づくり会

矢野 直

【ぼくらの高川デザインプロジェクト 2019】

高川地域づくり会は、西予市城川町高川地区において地区住民自らがよりよい地域となるように、様々な事業・活動を行っている地域づくり団体です。西予市の手上げ型交付金制度を活用し今年度から取り組んでいます。

大切な地域資源である高川地区の子どもたちが、ふるさとについて学習し、地域の大人や地域外から訪れる大学生等との交流を通じて、将来に残していきたい地域の魅力を発見し、その保全と活用の方法について考えられるようになること、その考えを大人たちに伝えるプロセスを経て、子どもたち自身の夢を描く力を育むことを目的としています。



質疑応答

Q 交流団体「SUIJI」とは何ですか。

A 地域交流・課題解決を図る、愛媛大学、香川大学、高知大学、交流のあるインドネシアの大学など6大学からなるグループで、高川地域では、6年目の活動です。学生が8月に10日間ほど高川地域に滞在します。SUIJIは他の地域でも活動しています。

Q 集まる子どもたちをどうやって集めているのですか。

A 学校をあまり通さず、文書やラインで呼びかけています。小学校が閉校になる4年前にラインのグループができています。

Q 話合いの中で子どもが企画する場がありますか。

A 今のところありません。今後できたらいいと思います。

Q 地域に小～高の子どもは何人くらいいますか。

A 80～90名です。幸いなことに少しずつ増えています。

Q 哲学対話のテーマは何ですか。

A いくつかのテーマを用意していましたが、子どもが選んだのは、「学校に行くのは何のため。」前向きにとらえている子が多かったです。大人と子どもが対等に話合うことが目的なのでテーマは何でもいいのです。

Q 閉校になった小学校の利活用は進んでいますか。

A 進んでいません。

愛媛県立小田高等学校

船本 優依 他

【教育活動を通じたソーシャルキャピタルの蓄積を目指して】

愛媛県立小田高等学校では、様々な教育活動を通して、社会・地域における人々の信頼関係や結びつきを生み出し、新たな取組への礎とすることが、地域コミュニティの維持・地域活性化に繋がると考えています。

本校には、総合的な学習・探求の時間を中心に展開する「小田高版・起業家教育プログラム」があります。本プログラムでは、内子町小田をフィールドとし、産官学の協力に加え県外や海外協力機関との連携を通し、地域の魅力や課題の発見、地域デザイン等に取り組んでいます。私たちは、本プログラムを中心とした本校での教育活動を通して、ソーシャルキャピタルの蓄積をめざしています。

質疑応答

Q コーディネーターの体制はどうなっていますか。

A 学校に地域との窓口をつくると情報は集まってきます。役場の中にも地域コーディネーター的な人がいます。地域のリーダー的な存在の方と交流を持っています。

Q ふるさと講師縁(こうしえん)の講師選定基準を教えてください。先生が決めるのですか。生徒からですか。

A 講師選定のシステム化、データ化はしていません。その時必要と思う人を探し、広がっています。講師との関係は、1回で終わりませんSNSなどのつながりもあります。



- Q 船本さん（発表者の高校生）は、この学習をどう思っていますか。
- A 最初は嫌だと思っていたけど、2年生になる前くらいから発表するのが好きになりました。
- 今は、小田の自慢をみんなに伝えたいと思っています。
- Q システム化していないのは、逆に大変ではありませんか。教員の中に業務に対してマイナスイメージはありませんか。
- A アソシエイト全国サミットでもその話題が出ました。本校では、小規模校なので、自然と協力体制ができていたと思います。働き方改革や忙しさからみると現状維持のままと言えます。
- Q ふるさとフィールドワークのまとめはどのようにしていますか。
- A 答えが出るものばかりでなく、疑問が残ったままでもいいと思います。ポートフォリオを大切にしています。やっていることの記録を残して、ここまではできていることが分かるようにしています。
- Q 生徒の疑問・要求に先生はどう答えていますか。かかわり方はどうしていますか。
- A 教科の指導ではないので、教師が答えを知らないことが多いです。一緒に答えや講師を探すことが応えることになると思います。

分科会D《魅力ある地域へ》

（1階 和室）

司会者；清家 卓
会場責任者；武岡 伸司

どい書店（内子町地域おこし協力隊）

岡山 紘明

【どい書店】

内子町旧小田地区の活性化のミッションの一環として、地域で空き店舗となっていた「旧土居書店」をリノベーションし、コミュニティ施設として生まれ変わらせています。

用途としては町の図書館、シェアオフィス、シェアハウス、ミーティングスペース、イベントスペース。一日平均11人程度の集客があり、月に300-400人程度の人を訪れている。来場者は小田地区以外にも外国人をはじめ、日本国内外からおり、老若男女問わず、地域の結節点となっています。

子どもたちは月に延べ73名(2019年11月)が来場し、宿題やゲーム、おにごっこなどを楽しんでいます。工作中やミーティング中の大人の横で騒いでいる姿も見られ、地域内外の大人との緩やかな出会いの場となっています。



質疑応答

- Q 活動が、人と人をつなぐコミュニティになっている。岡山さんが地域おこし協力隊に応募したきっかけは。
- A 小田地区が好きで、大学院で地域のことを研究していたこともあり、私の持ち込み企画でスタートした。内子町の役場に相談したところ、この企画に合った地域おこし協力隊の募集をかけてもらい採用となった。
- Q 小田高校を残すための地域の盛り上がりは。
- A 小田地区住民の9割近くはあきらめていると思う。意識を変えてもらうために1泊2日の「小田高春ツアー」を3回企画し、実際のくらしを希望者に体験してもらった。経費が3回で50万程度かかったが寄付でまかなった。活動を通じて地域意識を変えるよう工夫している。
- Q 協力者はどのように集めているか。
- A 誘われた(提案した)方のサポートという形で行っているので、提案者が協力者となっている。どい書店はシェアハウスにもなっているのでその住民にも手伝ってもらっている。お願いして地元の方に協力してもらうこともある。
- Q 地域おこし協力隊の任期は3年だと思うが、3年後のプランはどのように考えているか。
- A どい書店は、家賃、光熱費、修繕費等で10万程度の維持費がかかっている。シェアハウス、イベント、今回のような講演でぎりぎりまかなっていきける状態である。私がいなくなっても維持していきけるしくみは整いつつある。次に入った方のカラーで(どい書店の)維持を考えてもらえればと考えている。
お金になるコミュニティの場が理想。宿泊施設としての活用、小田の林業を活用した消臭剤・アロマオイル作り、東京のデザイナーとファッションブランドの立ち上げなどを考えている。政治にも興味があるので町議の仕事にも関わってみたいと考えている。
- Q 小田の地域の方の変化は。住民は、地域に魅力を感じるようになってきているか。
- A テレビに出演することで喜んでもらえたり、「よう来てくれたな」と声をかけられたりするようになった。「こうしたらどうか」「こうしてほしい」というリクエストもある。その反面、SNSでの発信が多いため、活動を知らない人もおり、周知が難しい面も感じている。小田の雑誌を作り、インターネットを介さない宣伝も考えている。

愛媛県立三崎高等学校

三崎高校せんたん部

【三崎おこし】

西宇和郡伊方町で唯一の高校である本校における進路状況は、卒業を機に都市部へ転出していく生徒が多いです。また、伊方町は地域の担い手不足が深刻化しており、今後の課題となっています。そこで、地域を担う存在である高校生が地域の良さを再発見し、郷土愛を育み、地域に誇りを持った社会人になり、将来地元に戻り地域のリーダーとして活躍する人材(「ブーメラン人材」)に育つことをねらいとし、地域おこし活動「三崎おこし」に取り組んでいます。

今年度の主な取組としては、廃校となった地元中学校を活用した「みさこうマルシェ」の開催、地域の健康寿命を延ばしたいという思いから制作した「みさこう体操115」の各種行事での普及活動、高校生・大学生による地域活性化フォーラム

「せんたんミーティング」の開催などが挙げられます。

今後もこれらの活動を通して高校の魅力化と地域の活性化を目指し、活動していきたいです。

質疑応答

Q 「みさこう最先端エシカル」の「エシカル」をどのような意味でとらえていますか。

A 持続可能な社会の実現に向けての活動です。みさこうは三崎高校のこと、最先端は三崎高校が岬の先にあること、最先端をいくことを意味しています。(個人の意見になるかもしれませんが) 平等な社会にするのは難しいですが、公平・公正な社会であることが大切で、そういう社会を作りあげることで持続的な社会になるのではないかと考えて活動しています。



Q 今の三崎高校生が卒業しても、このような企画を受け継ぐ仕組みはありますか。また、このような活動は学校主体なのか、地域主体なのか。つなげていくための仕掛けがあれば教えてほしいです。

A 三崎高校では、地域の方の協力で様々な商品開発を行っています。生徒や先生が活動するが地域の方が積極的に参加してくれているので、これからも続けていくことは可能だと思っています。

Q 三崎地区の生徒は、三崎高校を進学先として選んでいますか。

A 生徒数自体が減り、地区外に出ていく中学生もいます。三崎高校の約半分は、地区外・県外の生徒で占められています。

Q 今年1年間で印象に残っている活動は何ですか。

A せんたんミーティングという地域の高校生が集まって各地域の課題をみんなで解決する会を三崎高校で行いました。地域の活性化につなげていくための話し合いが印象に残っています。挙げた課題は「三崎にとどまる人がいない」「どうすれば三崎に人が集まるのか」。それについてみんなで話し合いました。

Q 普段から防災に関わる実践を行っていますが、見えてきたこと、やってみたいことがあれば教えてほしいです。

A 三崎高校は高台にあり避難先としては最適ですが、高齢者にとって避難しづらい面があります。校内にも危険な場所があり、改善していく必要性を感じています。

Q 三崎高校は、文科省指定「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」地域魅力化型の指定校となっています。一步踏み込んだ行政への提案、企業と連携した後、(三崎高校と地域のお菓子屋さんが協力して作ったみっちゃん大福の時のように)三崎高校が提案したものを継続して販売する仕組みは考えていますか。

A まだ、検討段階ではあるが三崎高校では、会社を立ち上げる計画があり、そこで販売していこうと考えています。

県立高校なので利益は出せないが、地元の人を集めるために、三崎高校で作ったものを地域の産業にしたり、裂織りなどの地元の産業を復興させたいという思いがあります。会社には地域の高齢者にも参加してもらって、話をしながらいっしょにいろいろなものを作り、高校生がイベントなどで売るという仕組みを徐々につくっていきたいです。また、地域外に出て勉強をしている地元の卒業生が、三崎地区に戻ってその活動をつないでいって来ています。



全体会

(4階 大ホール)

ファシリテーター：二宮 伸司

【アイスブレイク（私は誰でしょう？）】

参加者の背中には、付箋紙が貼ってある。そこには、4種類の動物の名前（パンダ・ウグイス・フクロウ・クマノミ）が一つ書いてある。参加者同士が、質問をしながら“わたし（動物）”を予想していった。その4人が一つのグループになり、役割を確認した。

- ・パンダ（司会：白黒つける人）
- ・ウグイス（発表：声が美しい人）
- ・フクロウ（記録：ホーホーと納得しながら記録する人）
- ・クマノミ（議論を盛り上げる人）



【基礎統計にみる社会教育（ランキング）】

示された10項目について、自身の考えを記入する。

- ・各項目について、その割合と順位を予想する。

示された10項目について、グループの考えを記入。

- ・自身の考えを述べつつ、相手を尊重しながら決定する。

正解をワークシートに記入する。

意図開き

- ・個人誤差からグループ誤差を減じて、効果の可視化を試みる。

まとめ

- ・地域の教育資源の把握と活用の必要性



【アンケートから】

分科会 A

- ・ 福祉畑で、教育の会には初参加でした。お話をさせていただく機会をいただき、ありがとうございました。スムーズな会の運営に驚きました。
- ・ 楽しかったです。勉強になりました！
- ・ 地域によって環境が違います。それぞれ模索しながら取り組んでいます。形は違えど、人です。相手の立場に立ち、聞き、言葉をかけ、無理せずできることをできる分だけ続けることです。笑顔の効果は大きいですね。出会いをいただき、楽しく学ぶことができました。感謝です。
- ・ またぜひ参加させてください！ありがとうございました。
- ・ 毎回素晴らしい活動を聞き、自分たちの活動に参考にさせてもらっています。来年も楽しみにしています。
- ・ お二人の発表は目からうろこでした。熱い思い、行動力、愛情たっぷりの取組でした。自分たちの活動を振り返りながら、ヒントをたくさんいただき、とてもありがたかったです。原点に戻って考えるきっかけをまたいただきました。ワークショップは、やられました。考えるきっかけに感謝です。今回もお土産いっぱい研修となりました。ありがとうございました。

分科会 B

- ・ 素晴らしい発表でした。こじんまりとした少人数でのセッションでよかったです。時間が足りないくらいでした。お疲れ様でした。
- ・ 毎回新しい発見があります。地域との連携を強め、生き生きとした学校づくりを目指していきたいと思います。
- ・ 初めての参加でしたが、開会の時から笑顔にあふれ、肩の力を抜いて参加することができました。社会教育とは、地域教育とはどんなものなのか、少し分かったような気がします。地域とのつながりをどう広げていくかが課題であるようにも感じました。今の自分にできることは、「参加すること」かなと思います。今日はありがとうございました。

分科会 C

- ・ 高川の事例は、年々進化している。小田高校の教育課程での取組は先が楽しみ！！もっと発信を！！
- ・ 参加した以外の分科会の様子も気になったので、情報を共有(web等で後日)していただけるとありがたいと思いました。参加して、よい刺激を受けました。ありがとうございました。
- ・ 地域づくりは人づくりだと改めて思いました。ありがとうございました。
- ・ アイスブレイクどちらも初めてするやり方でとても楽しかったです。分科会

Cも改めて子どもたちから地域を巻き込む、つながっていくことが大切だと感じました。最後の全体会も勉強になりましたが、難しかったです(笑)理解力がなく、すみません!

- 全体会でいろいろな交流の機会をいただけてよかったです。もっといろいろな人の活動も知りたいなと思いましたが、それは、交流会ですね。
- 公民館、高校どちらの発表も興味深く聞くことができました。今までにない交流の仕方とても面白く、学びにつながりました。エビデンスの大切さに気付かされました。スタッフの皆さん、大変良い集会でした。ありがとうございました。
- 大変勉強になった。ワークショップも和やかでよかった。ありがとうございました。
- 年齢、団体、職業...様々な所属の方が一緒に考えることができる機会が素晴らしいと思います。チーム内子町で参加したいです。
- 事例発表という貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。
- 地域や高校での取組を聞かせていただき、大人も子どもも成長できるなと感じました。こうした取組みを小中の教育にも紹介したり、取り入れたりしながら、学校の先生が変わらなければいけないなと感心しました。ありがとうございました。
- A、B、Dの方の話を聞けなかったのが残念でしたが、たくさんの方とお話しでき、自分たちの発表もでき、本当によかったです。とても良い時間でした。
- しっかりした高校生の発表に感心しました。(もちろん内容も素晴らしかったですが、)しかも、その生徒が取組によって変わり、成長したということにも。最後の各種データにも学びました。
- 学び続ける意識。どこからでも学べることを改めて意識できました。
- 本日は、大変お世話になり、ありがとうございました。途中からの参加でしたが、大変学びが深かったです。特に全体会がE B P Mを体験として感じ取ることができ、有意義でした。
- それぞれの地域、それぞれの立場の素晴らしい取組発表を聞き、大変勇気と力をいただいた。置かれたその場で花を咲かせることができるよう、しっかりと地元を根を張り、教育を進めていきたいと感じた。ありがとうございました。参加してよかったです。
- 最後のワークは、とても面白かったです。ですが、題意が理解しにくいのと、ランキングがつけにくかった。「~している割合」と「~していない割合」の記述の仕方を統一するともっとスムーズにでき、分かりやすくなると思います。
- 分科会、全体会ともに肩の力を抜いて、聞いたり話したりできる雰囲気を楽しみながら学べた。知らない人と話す工夫が随所にあったこともよかったです。

分科会 D

- ・ 分科会では、「どい書店」と「三崎高校」の町おこしの発表を聞かせていただきました。二つの共通点は、「持続可能性」で、今活動をしている自分たちがいなくなった後も持続できる構造づくりを念頭に置かれており、私にはない考え方が学べました。その後の話し合いにおいても、2020年の目標を思い思いに語りましたが、どの方も社会貢献につながるようなもので、今回の勉強会でのつながりが自分のしたいこと材料となり、社会に貢献されるのかなと理想や夢をもつことができました。後半のワークショップでは、まだ知らない社会教育に触れることができ、大変勉強になりました。
- ・ 発表者以外にも、西村久仁夫先生や井関さんなど、昨年の交流会で知り合った人とも再び会うことができ、たくさん意見交換することができました。自分のフィールドに留まるだけでなく、いろいろな方との交流を通じて、異分野の方とも協力して、教育を通じ地域活性化になればいいなと思います。
- ・ 自治体の方々と、地域の方々と協力し合うことで幅広い活動ができることがよく分かりました。「どい書店」頑張ってください。三崎高校の生徒さんたちの素晴らしい活動に感動しました！（初めて知りました！！）これからのいろいろな取組にも期待したいと思いますし、私たちが協力できることがあればお声をかけていただきたいと思います。今日は楽しかったです！ありがとうございました！
- ・ 過疎の進むこの南予でこんなにたくさんの方がそれぞれの地域で様々な取組で活動しているのを知り驚かされました。自分の立っている場所で自分ができることでふるさとを応援していきたいと思います。
- ・ 分科会の出会いと学びは深く、全体会ではデータに基づいた社会教育の在り方が勉強できました。毎年参加させていただいていますが、年々ベルアップしていてすごいです。
- ・ 「どい書店」の岡山さんの多方面かつ緩やかなつながり、無計画のようでそうでない、見通しを持った活動の数々。楽しく聞かせていただきました。過疎化に向かう地域よさと再発見する企画づくり、つながりづくり、これからもぜひ頑張ってください、ヒントをもらいたいです。「三崎高校」は、年々パワーアップする取組の数々に感動しました。昨年の発表の際に、田村さんとお話をさせていただいたのですが、学校と地域のつながりをまとめる方もいらっしゃるようで、進化し続けていることに驚きました。高校生もすごいです、様々な仕掛けをされている先生や地域の方もすごいです！！ワークショップ、すごく勉強になりました。勉強しなおして出直します。二宮先生のファシリテーター、圧巻でした。大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・ 「どい書店」「三崎高校」とも、素晴らしい取組で、次につなげていこうとするしかけと意志を強く感じました。最初の歓迎ワークショップの大藤さんがよかった。全体会は思ったより相当よかったです。

- ・ 本日はありがとうございました。元気をたくさんいただきました。「地域愛」を育むためのヒントや、「地域の楽しさづくり」のアイデアをたくさん得ることができ、大変有意義な学びの時間となりました。私も地域と子どもたちのために努力していこうと、あらためて決意しました。また機会がございましたら参加させてください。
- ・ 高校生が多く集まる会になればいい。いろいろな高校の取組をお互い知って刺激になる。
- ・ いろいろな視点からの質問があって、とても勉強になりました。
- ・ 今日はありがとうございました。ニノズさんとお会いできてうれしかったです。これからも、地域の皆さんとがんばります！またよろしく願っています。
- ・ 様々な意見の交換をすることができ、自分たちの取り組んでいる活動にいかせるアドバイスをもらえることができて楽しかったです。
- ・ 参加してみて、公民館での生涯学習をさらに増やし、利用を促進していきたいと感じた。
- ・ 様々な意見を聞き、自分の考え方を見直すところがあると思いました。
- ・ これから私が取り組みたいことのイメージを膨らませることができた。
- ・ 楽しく交流ができてよかった。また、たくさんの素晴らしい取組を今後の参考にしたいです。
- ・ 人の集まる場所を作りたい。
- ・ 三崎高校の発表から力をいただきました。「つながりをチカラに」できそうな気分です。
- ・ かかわり、つながり、というテーマに合った集会だと思いました。
- ・ 三崎高校の生徒さんに大きな感動を受けました。応援します！
- ・ 今日はすごく勉強になりました。身近なところに素晴らしい実践をされている方がいることを知り、とてもためになりました。
- ・ とても刺激的でした。若い方の活動、地域とともにという姿勢、すばらしかったです。ありがとうございました。